

徽
雨
の
梅

微雨の梅 (表紙)

微雨の梅

享保十二年

完

911.44
T2
1

享保十三年

齊田松雲堂發行「書籍月報」七十三号二

閨の梅

露月齋 佐々木文山書 諸家画賛
源氏物語詠 元禄頃板

一冊

引ノモノナリ

トホトマシキモノナリ

微雨の梅 一冊

享保十五年版「二子山」蘭室句、財賦、画、青瑣、画等アリ
此書亦同年頃、出版ナリ、丘世否跡考、享保十三年版本
トアリ

以上、書入古宮、武外骨氏ナリ

若樹 一冊



文も前後の某ありと云と又魁として
 後撰こし下くまら此國の代の為なり
 是より准め家も何れも亦一物
 同の梅と号す彼山糖乃とくを今
 中俳諧に推し貴賤は向と此のむを
 畫圖の事と云ふ所も此の徳のまら
 れを露自へるまらけいま望のまら

わが心はわらわとやしきとと年又十
二倍のくまふふと源氏物語のやまをう
と何れを言せし上下の書あり 曰く陰翳
乃句をし被梅を對して後集を石に
あゝ微雨の梅とふ言は確よとて秋の
ふらふらとていふは海のものなりや

信美のまゝに 歎

折^レ花^ハ翠^ラ袖^ニ輕^シ

看^レ月^ハ自^ラ吟^カ行^ラ

遊^ニ子^ト且^ツ何^カ樂^シ

古^ク今^キ無^キ限^リ情^シ

露月艸
大山寫

山形縣和蘭園



桐壺

圓月堂

周角

山月堂

葵

長春也

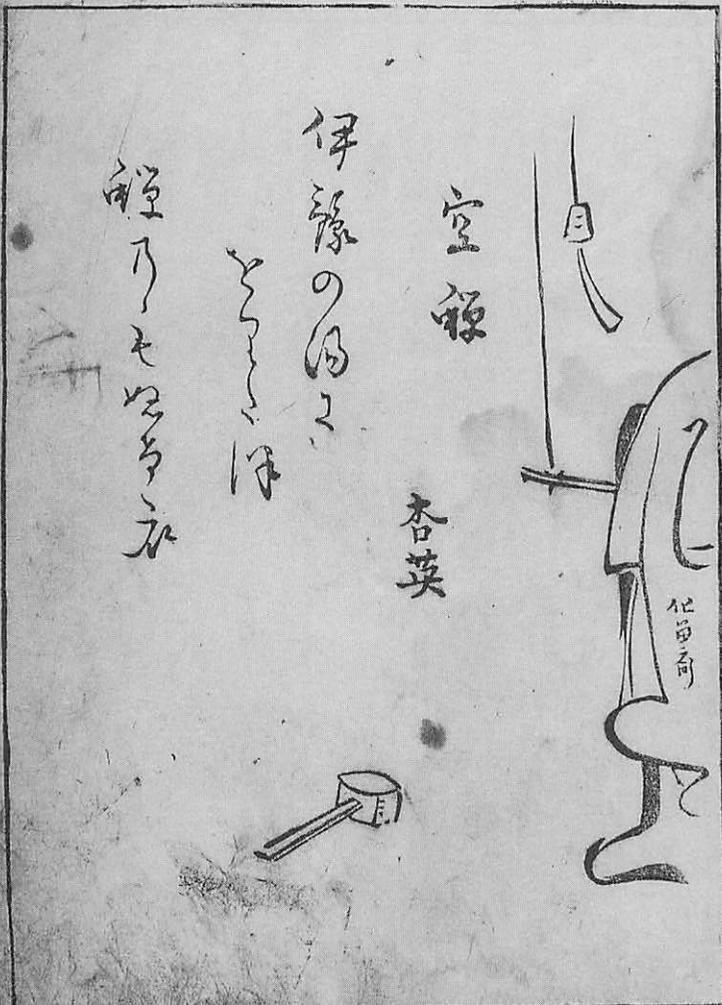
絲

子

乙信

3







小漢氏女筆

大候

多
来
は
ま
る
く
あ
ら
ま
る
く
あ
ら
ま
る
く



貞布舎
音雪画

未摘華

抑々乃

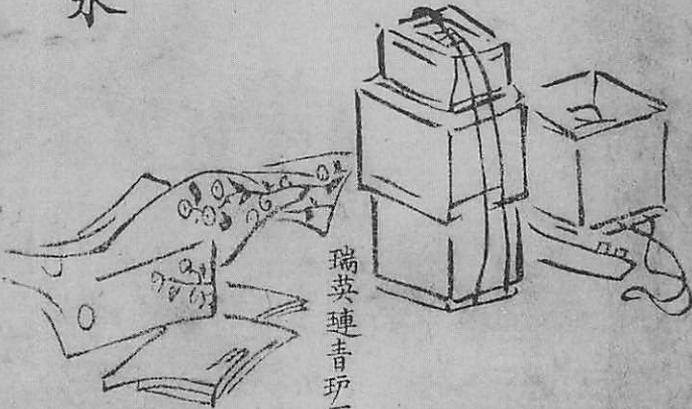
乞とも

か

紅緒

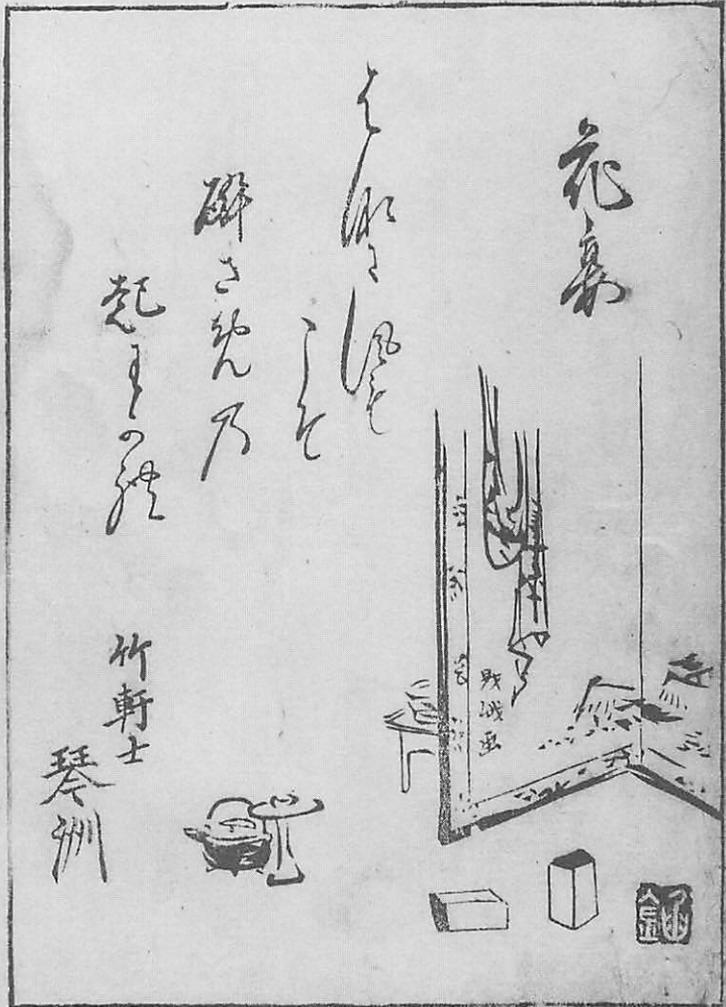
や

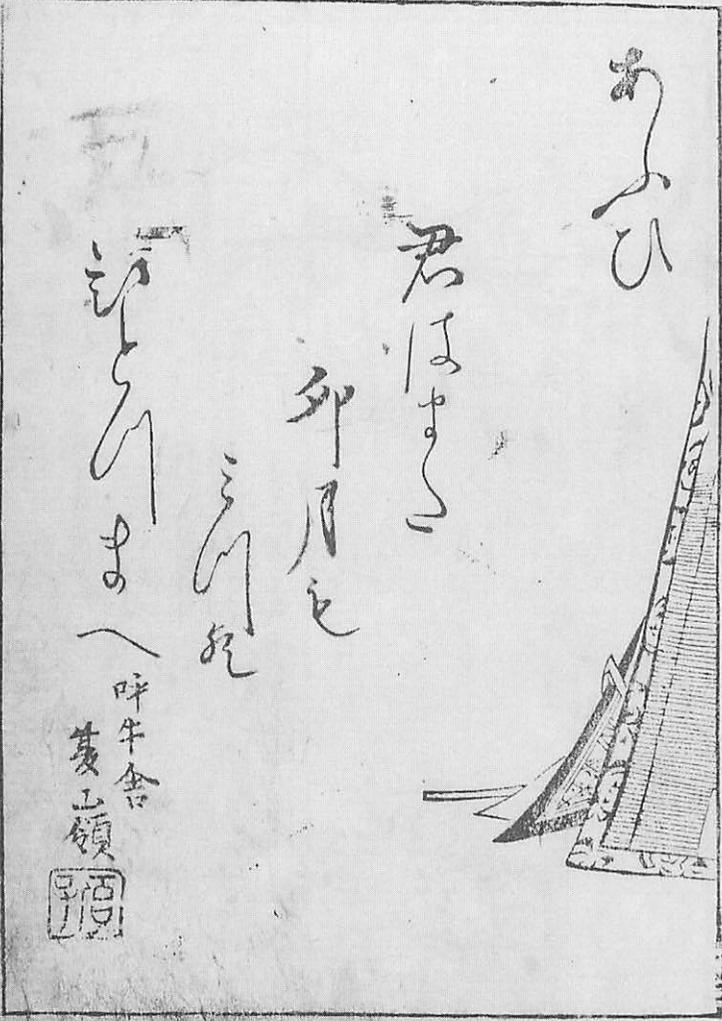
大水



瑞英種音画









仙舟成

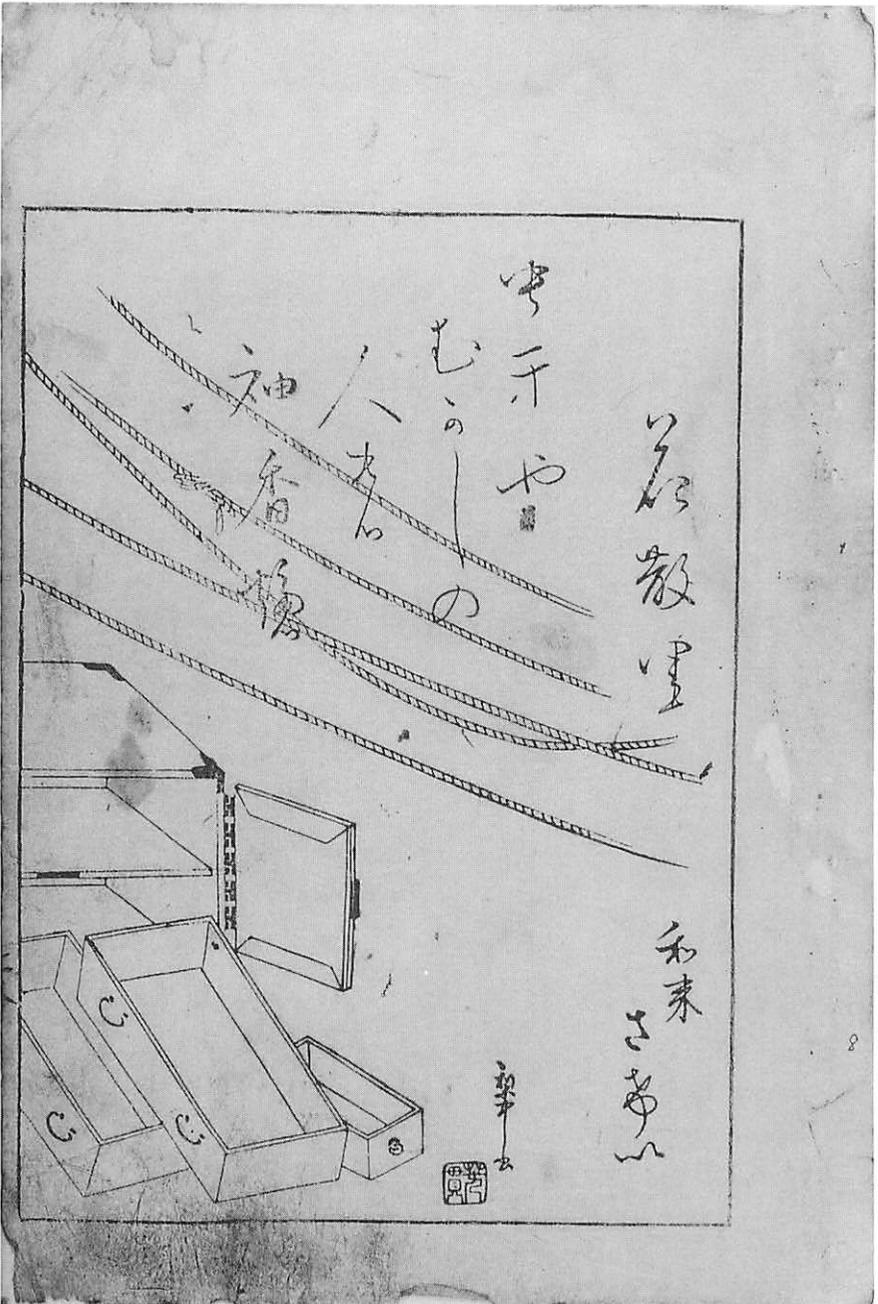
柳

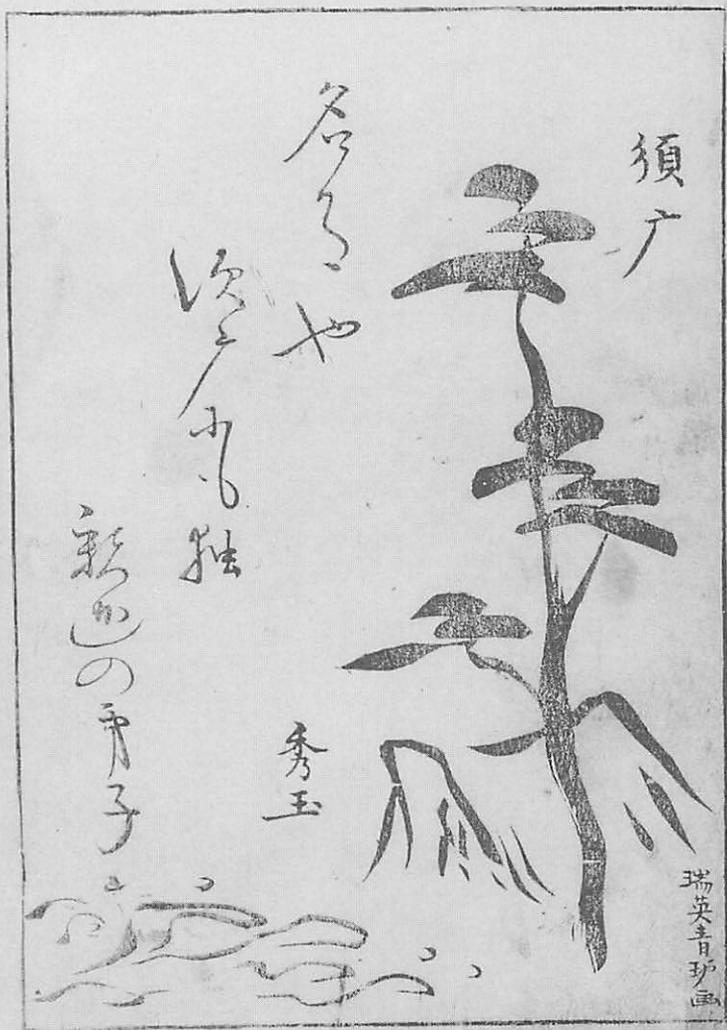
淡蕨の浮世子

幾けも親子連

惟暮亭主人

貞磨

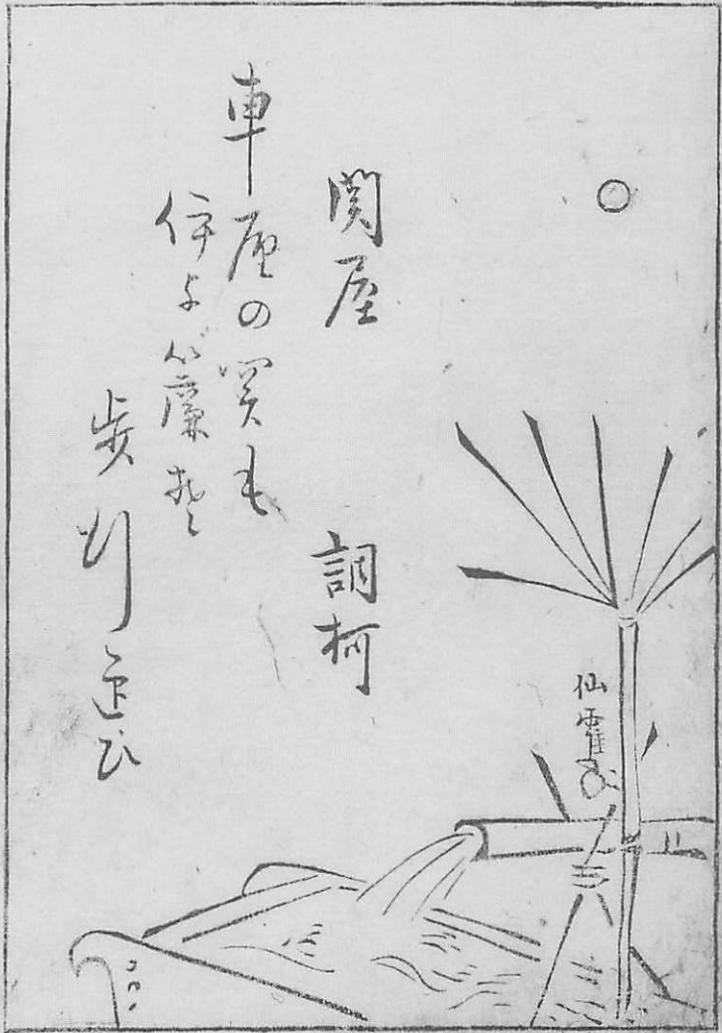












関屋

詞柯

車屋の窓も

佇よ心原花し

歩りよ云

仙霞

繪合

得洲

あまのこは

弦の味線

花の夏

又の草



長年













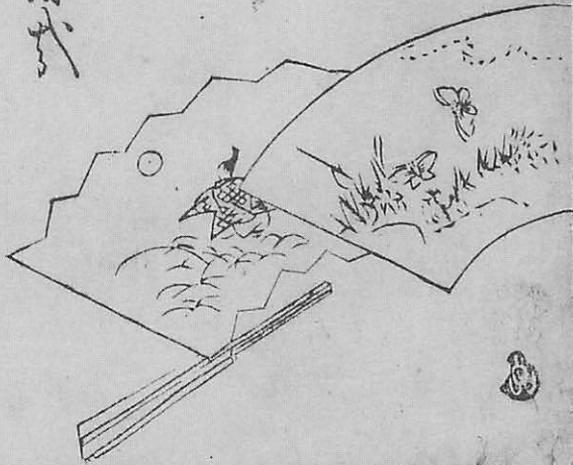
小蝶

蝶小みふと

花

似ふ小蝶

南宮
我誘

















六木柱

菊磨

一
之
花

如
也

我
也

和
之
系

楊
の
里

久
之
光



梅枝

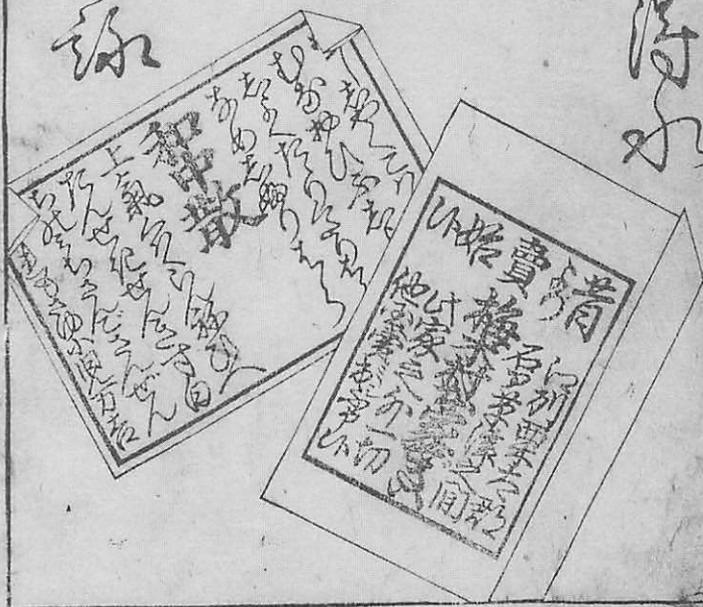
得水

鉄面乃

音心

白子花

梅の歌



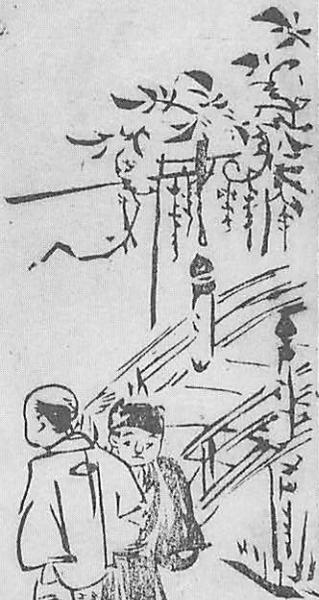
藤のうらみ

舞臺

波やわひあそ

友見う那

大慶堂
素兄



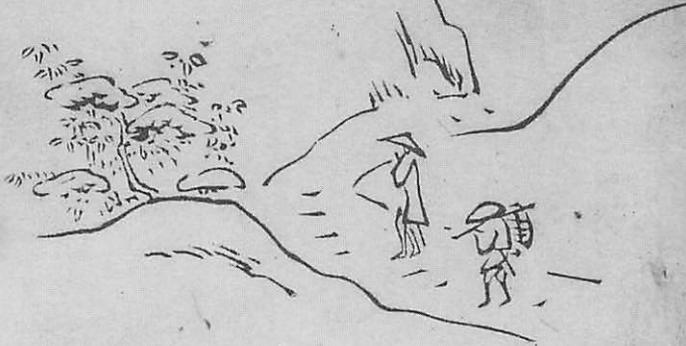
わのふじ

山皇
自画

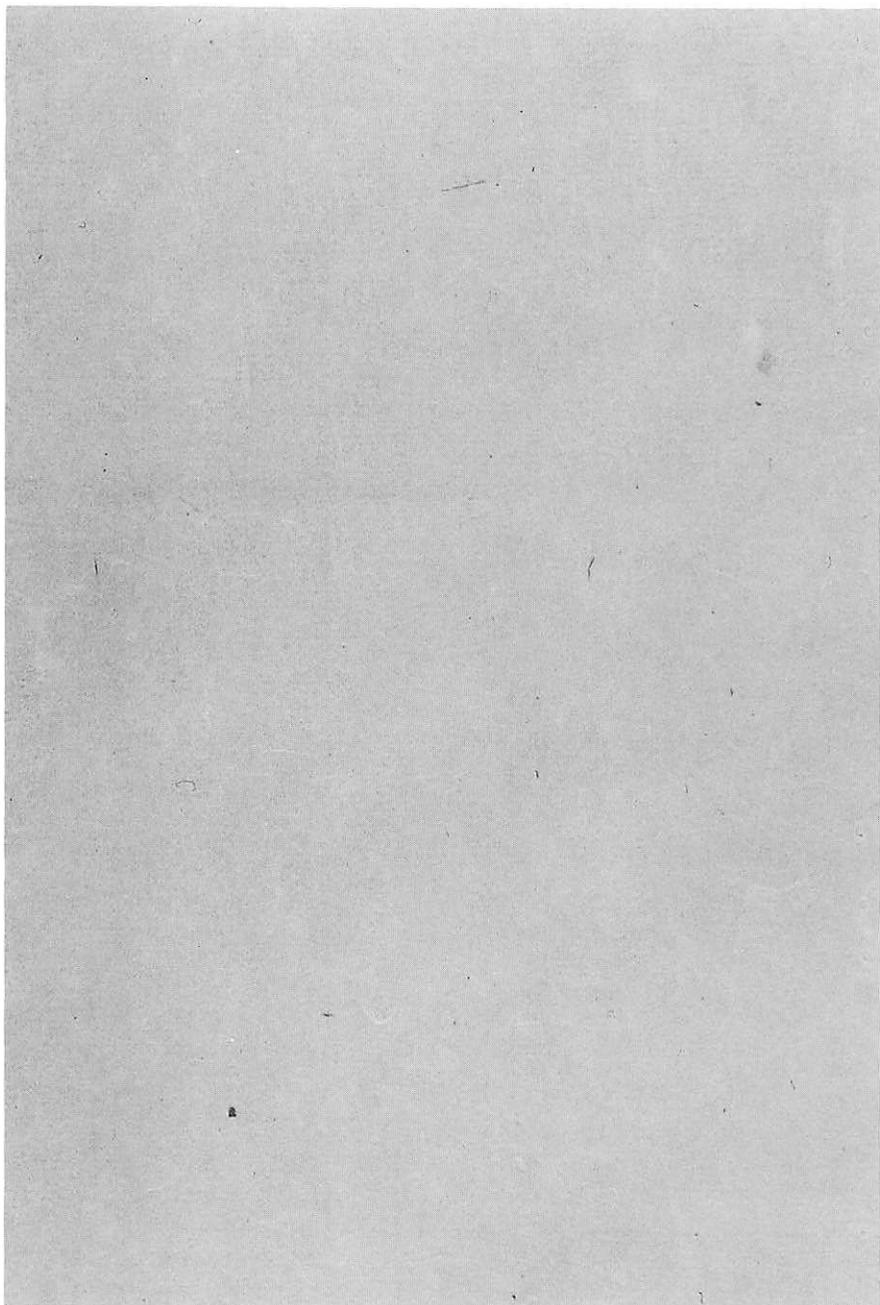
酒へ未

ちのちのふじ

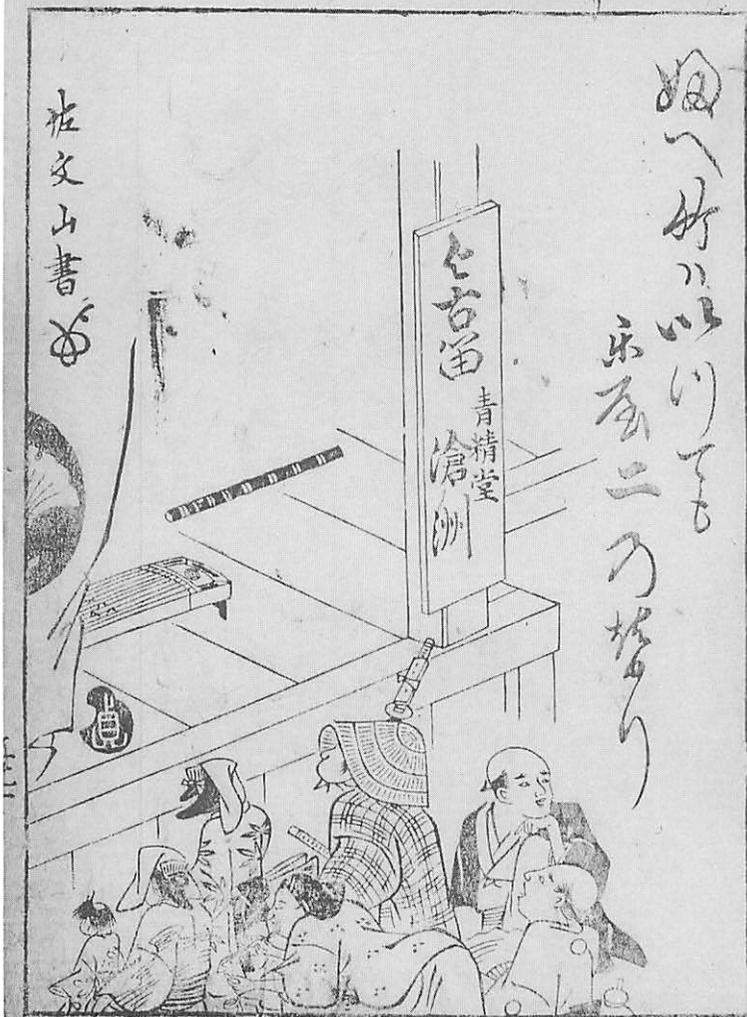
畑乃眉



微雨の梅（上二十才白紙）



微雨の梅
(上二十ウ白紙)



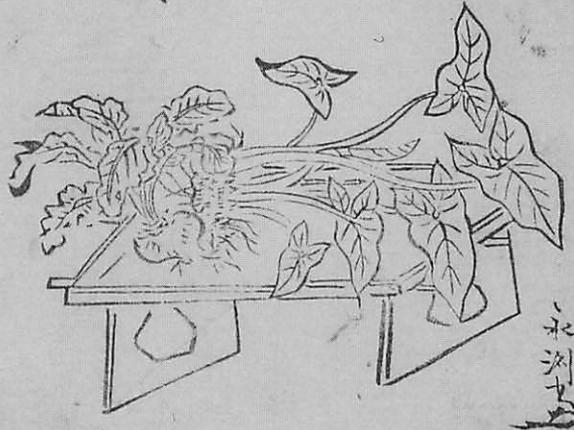
鈴虫 沾録

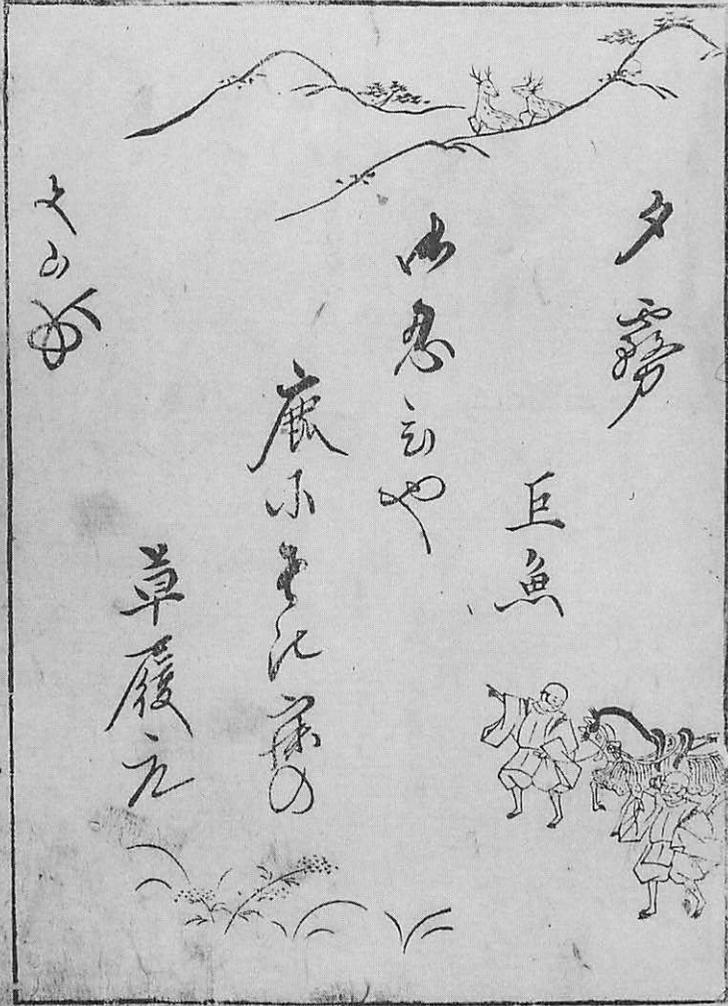
暮る音り

振袖お化の

天竺敷

大の字





夕霧

巨魚

草履元

鹿小

二七九





香 兵 部 卿

梅

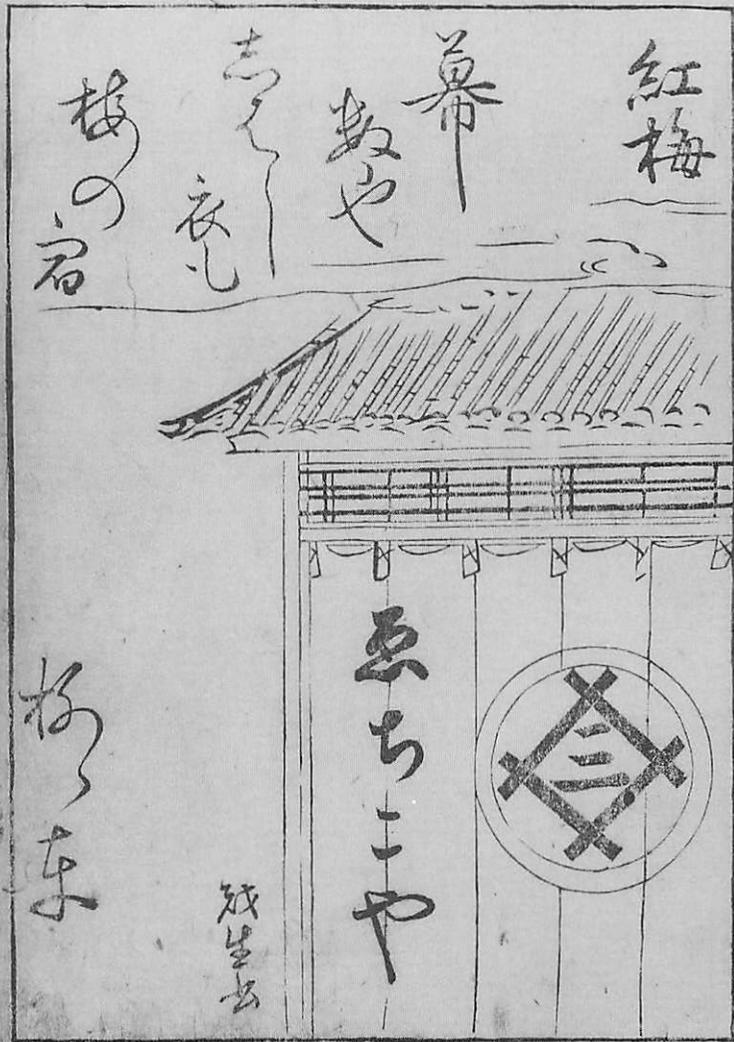
男

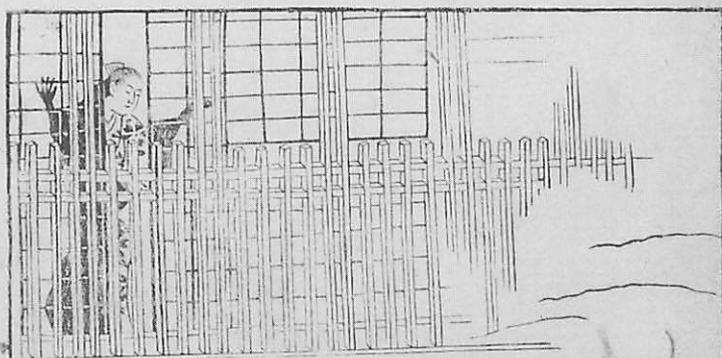
志

子



可容





竹河

家山亭

竹町者也

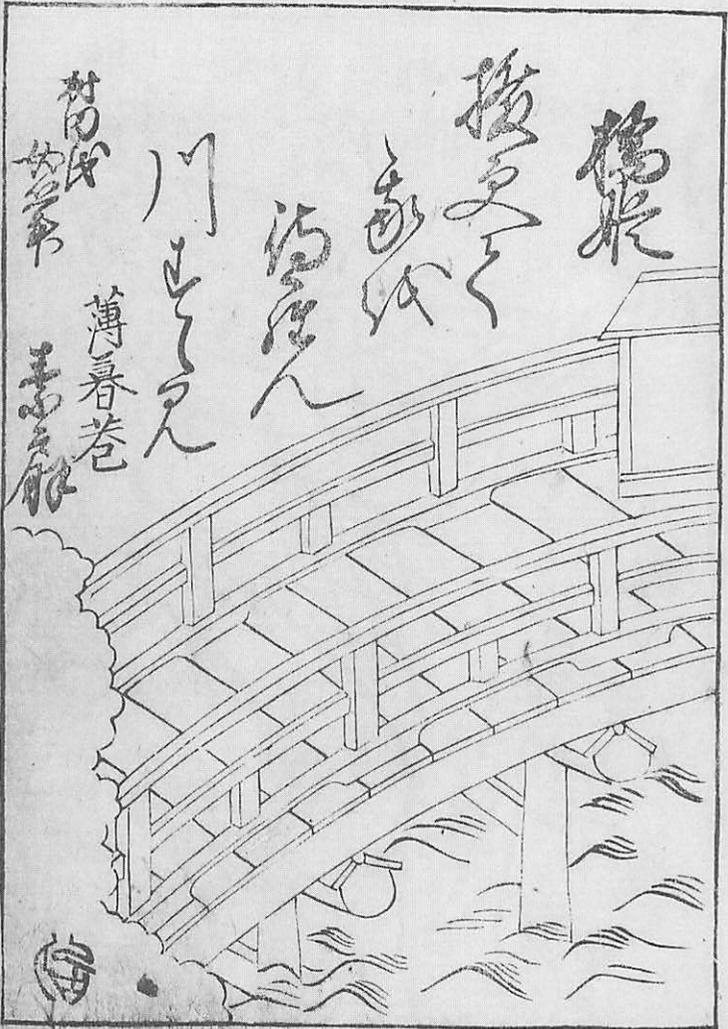
勝氣

楊田

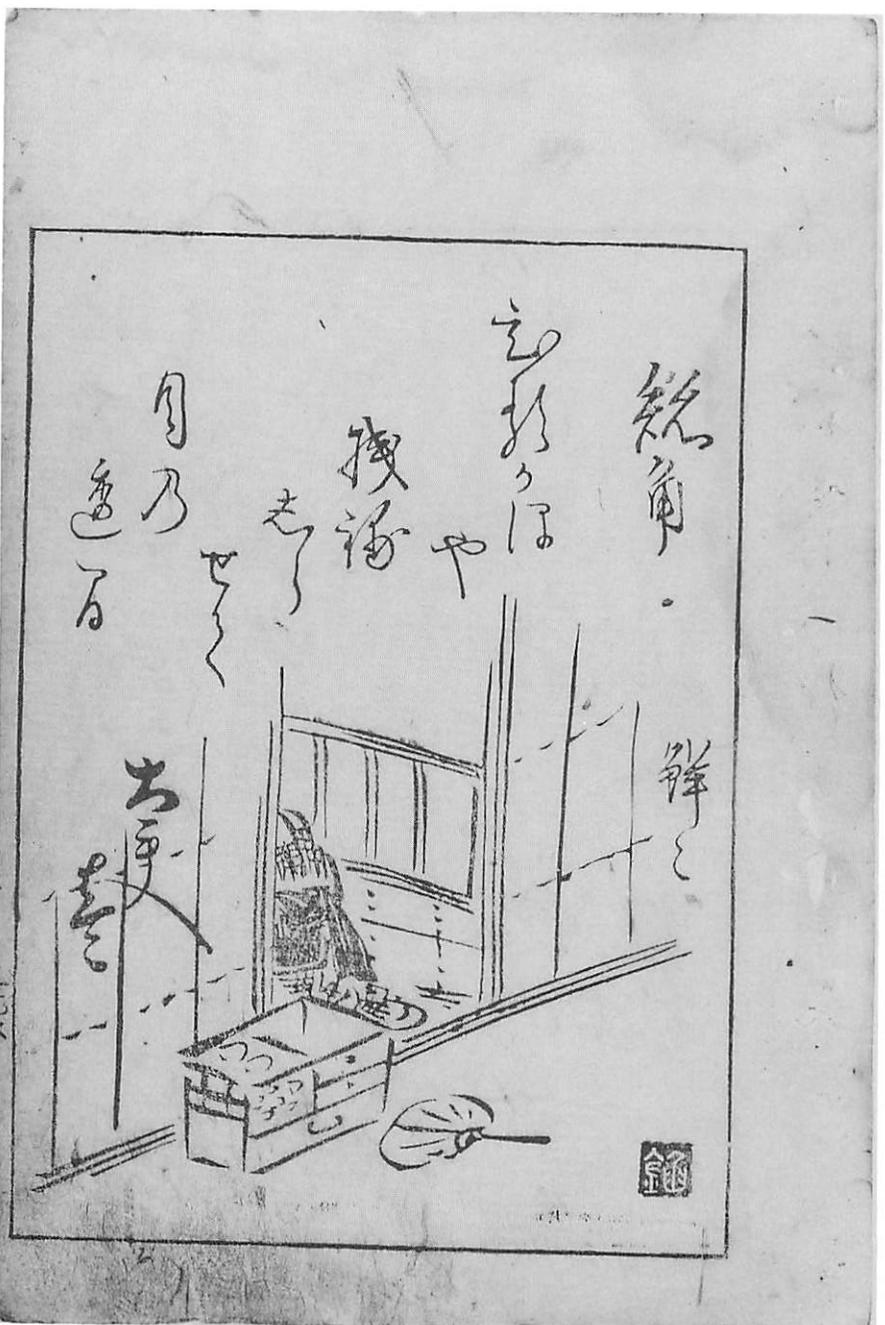
木昌



女葉





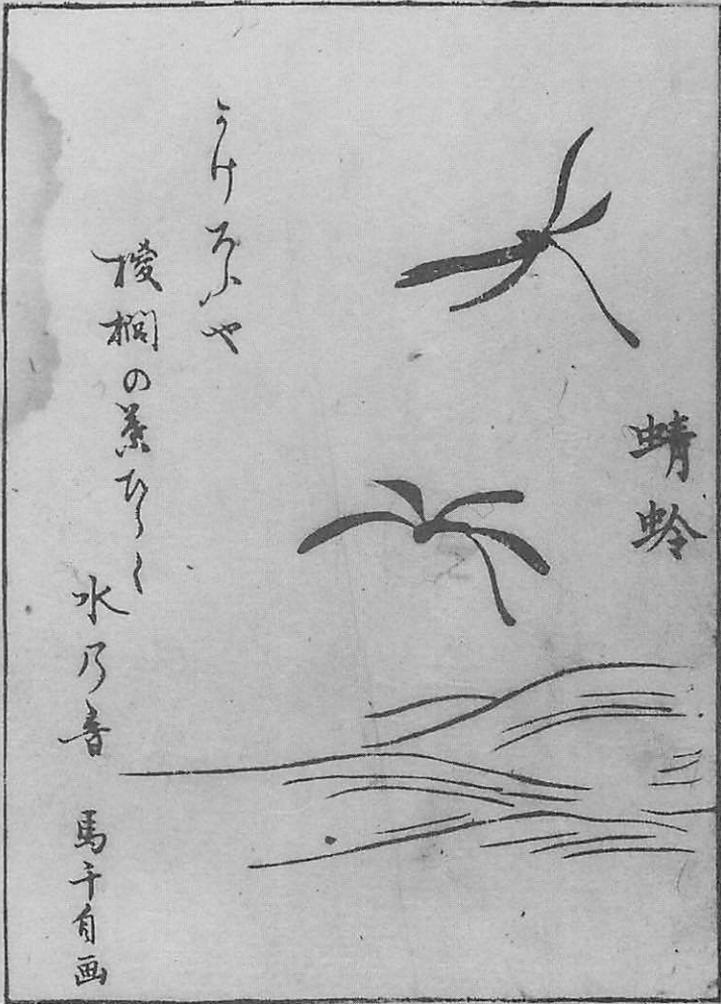












てあはれ

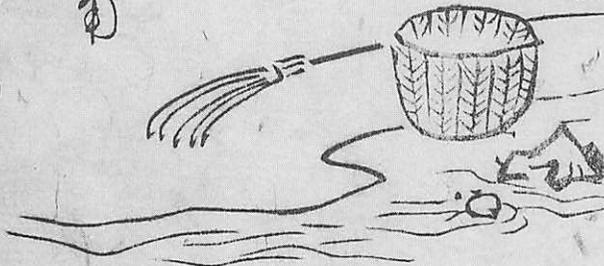
と海苔と

引立足ん

衣の角

仙居

梅



夢浮橋

也 或 未 寢

帝 能 能 之

乃 六

其 燈

醉 四 庵

大 阜



一代より一層本音強きはなまは <small>はなまは</small>	郭公を 梅の香ふ耳のたゞは 鉄炮のこぼる満ちる 控棒ふ送るやこころ 消濁をたのむに 酔もせむよそわて 何事	壺月 安士 啓史 青鑑 青條 <small>甲列</small> 知登 超波 遊鯉
---------------------------------------	---	---

是も歌を目境も有と時鳥
つらつらの面秋あそひ歌ら

尾谷
露月

今

切落の帆のこゝろあふまき
君わきし浪人巨魁や雲次
とてもて初何とてよ心

友干
潭小
倫里

秋

秋のつらつらとあそぶ人の
あそびのつらつらとあそぶ人の

あそびもあそびしつらつらとあそぶ人の

長谷川
彦太郎

トヤフヤトクコホシラ
東風解凍

春の来たる
東乃池の

鯉の魚

露沾

仙鶴画マ

出









瀬祭魚

水の音

舟

旭

馬屋

コウカンキタニス
候雁北

孝
江と

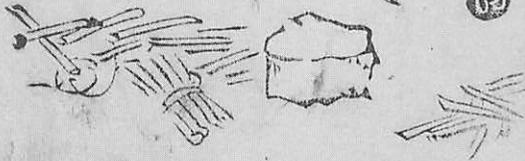
濁

丁
や怪漢者

舟樂



彦雪画



サウ
モク
ハウ
トウ
ス
艸
木
崩
動

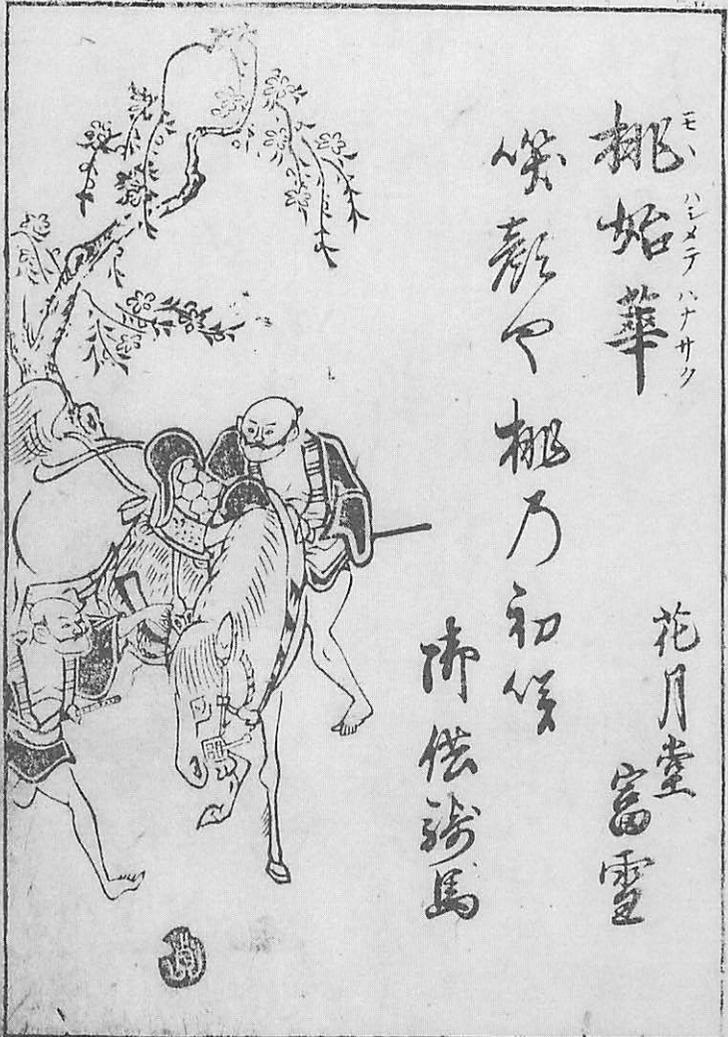
誰
ウ
中
を

神
ろ
ろ
ろ
や

青
丹
ろ

北
越
住
暮
琴









ケシ
至
至

繫鈴舎

つとむえん

雨橋

燕子あはれ

おとこ

しん

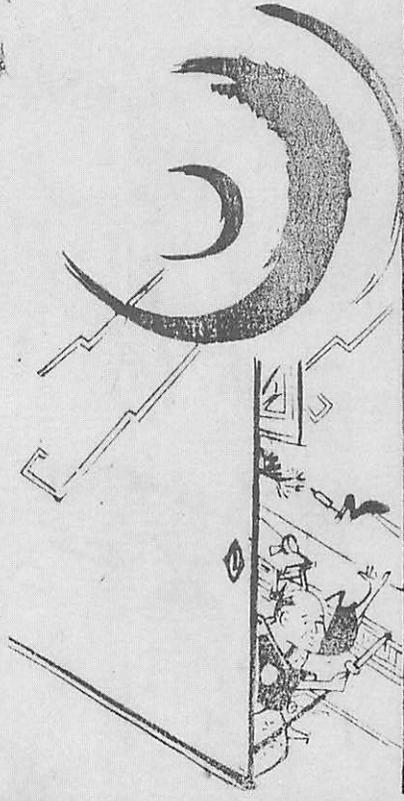
雷乃發聲
ライノチハダシ

ゆふふ
ユフフ

物強り
モノツヨク

宿り
ヤド

枕流
マクらの
早寝
ハヤネ



始電 ハシメテ イナヒカリ

早糴乃

流や

のどち記

いふひうま

尖柳 貞直





桐始花
キリシメチカサク

桐咲く天守塔より
緋屋糊
萩浴

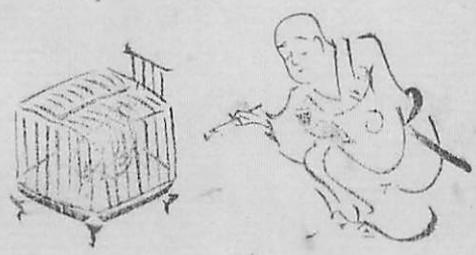
田鼠化爲鴛ヒナト

捨全ハ

五國(化)〜

飼う〜

沽玉



捨全ハ

紅始見 ミシハシメテアラハル

初紅や

波小音ね

梅の舟

塵人



ウキハハシメテシヤウス
萍始生

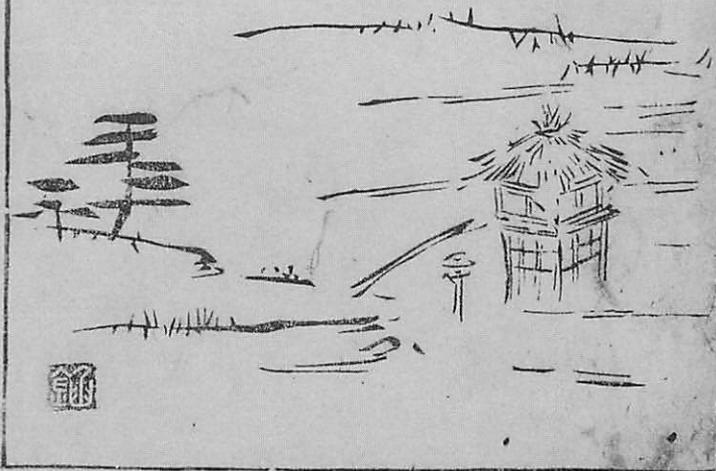
菊乃子

子乃
子乃

子乃

紫淵閣

露月々



青紅楓谷

鳴^メの川^{カハ}也^ヤ

鳩^キ

拂^{ハラフ}

宮^{ミヤ}の^ノ屋^ヤ

其^{ソノ}布^ヌ穀^{コク}鳴^ネ
羽^ハ



タイニヤウクニル
戴勝降_ニ於_ニ桑_ニ

桑乃木也

てし_ニ路_ニう_ニ鳩_ニの

神_ニ戸_ニう_ニも

幸_ニ魚_ニ



永_ニ創_ニ也



キウイニイワ
並州出

出給ハ家

並州といふ小

小織錠

九之堂

小文



休真堂



ワタクラ
ニヤタス
王氏生

鳩田
文岩

苦菜秀 クサイヒイツ

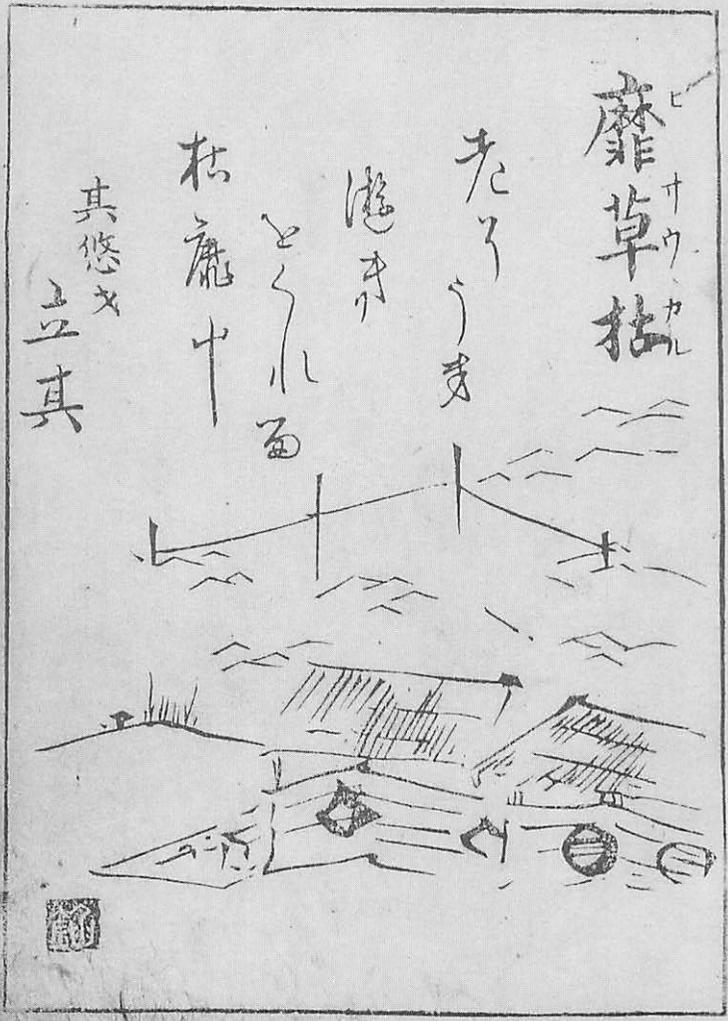
越前本保 亮

八橋殿

あきあき

万々々々





バグトウニウス
爽倉秀

ト総

な津乃

襦袢

春暖

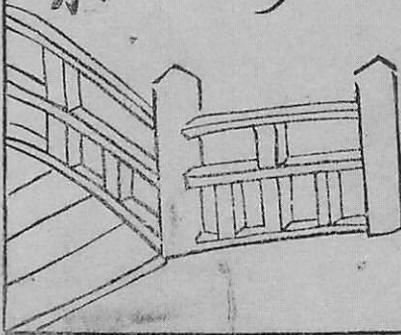
永奈

中

お如

瑠璃軒

一作

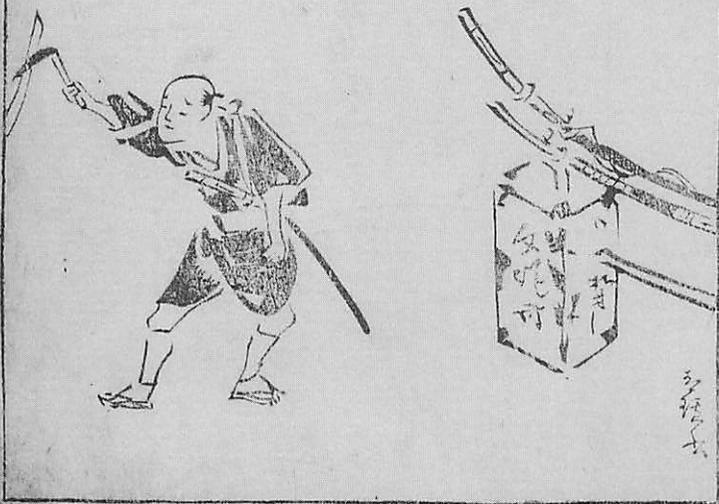


マウ
コウ
シヤ
ウス
蟻
生

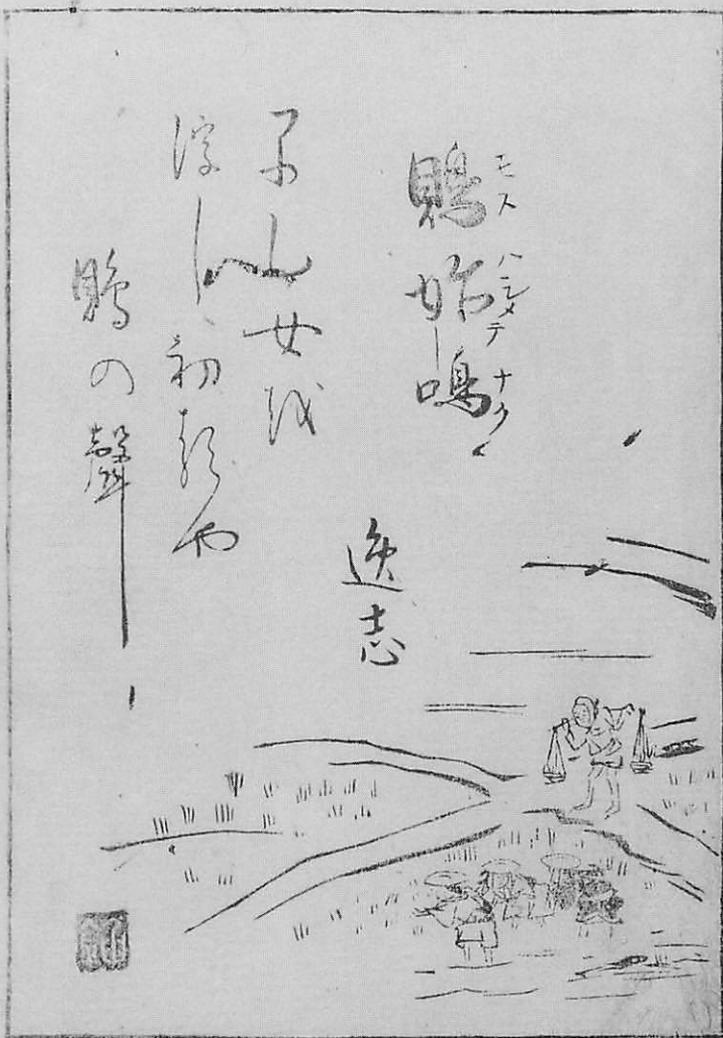
蟻
能
の
お
の
れ

ま
も
也
け
終
鐘

大
梅
魁



三
三
三



反^{ハシ}舌^{セツ}無^{ナシ}聲^{コエ}

損料と

かきハ

引^{ヒキ}く^ク此^{コノ}塵^{チリ}ク^クナシ



馬場



下十四

鹿角解
ロクカクケス

吟
有
筆
書
法

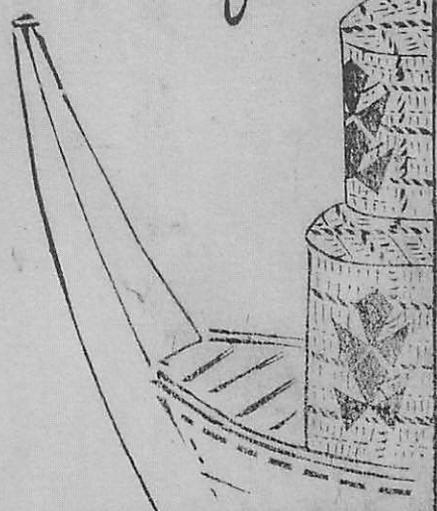
物
々

眞
々
々

お
し

は
の

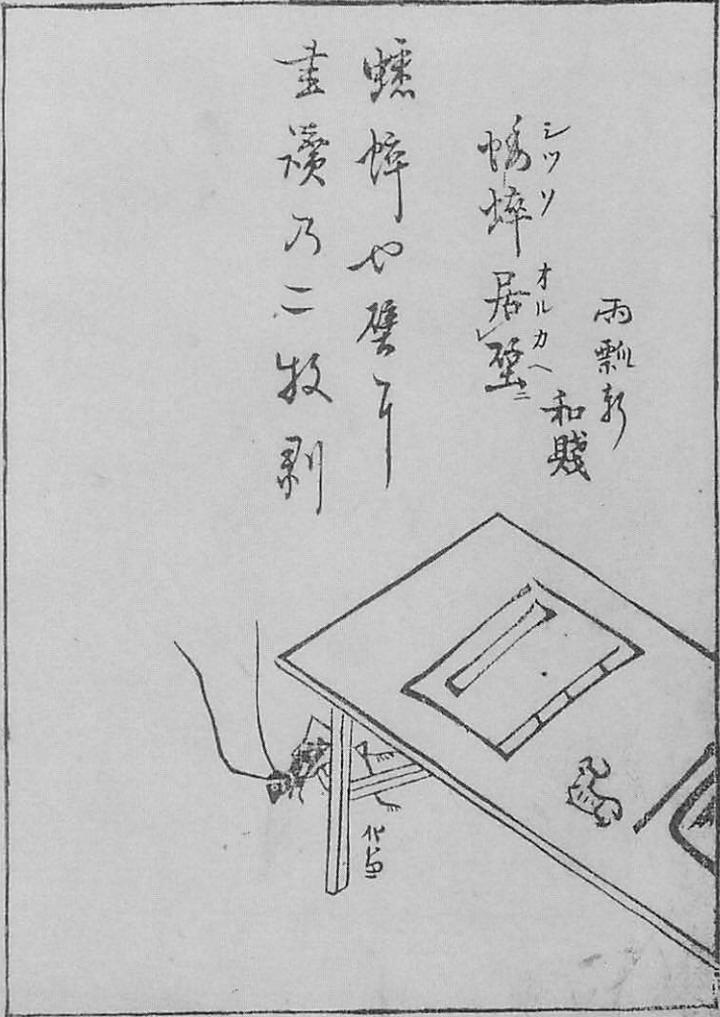
東
里













フサウ ナルホタルト
腐草為虫

不秋堂

里仙

州記

古江の夜の

みよ

仙好



トビエトヨリ
土洩瀉暑

ほげ暑

るあま

いもあま

暑
うま

文帳



書
る
女

タイウトキニク
大雨時行

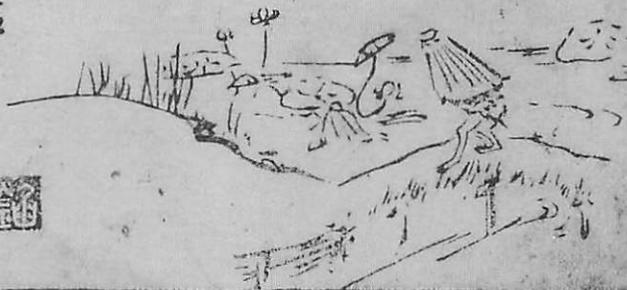
智恵乃矢急

蓮乃

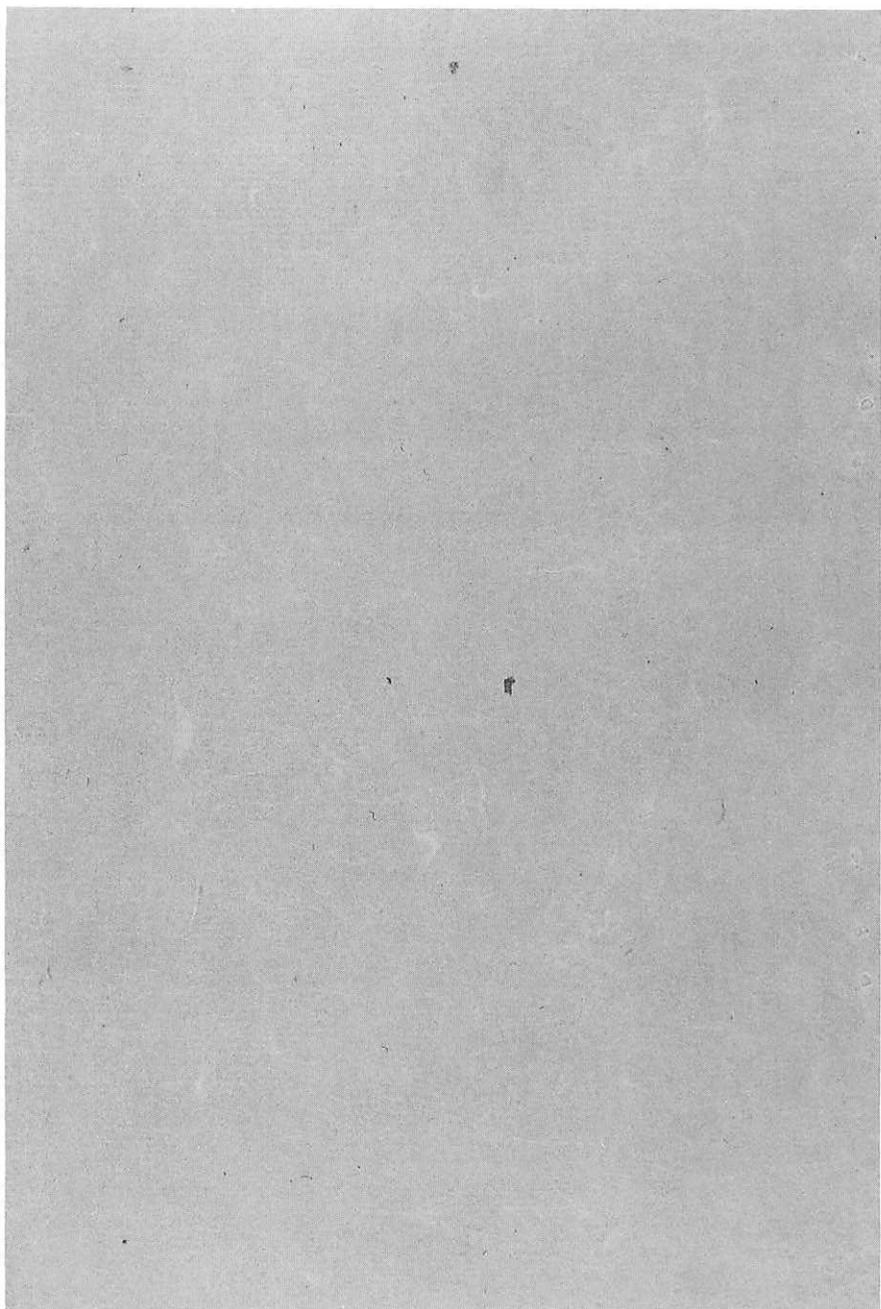
雨

柳乃

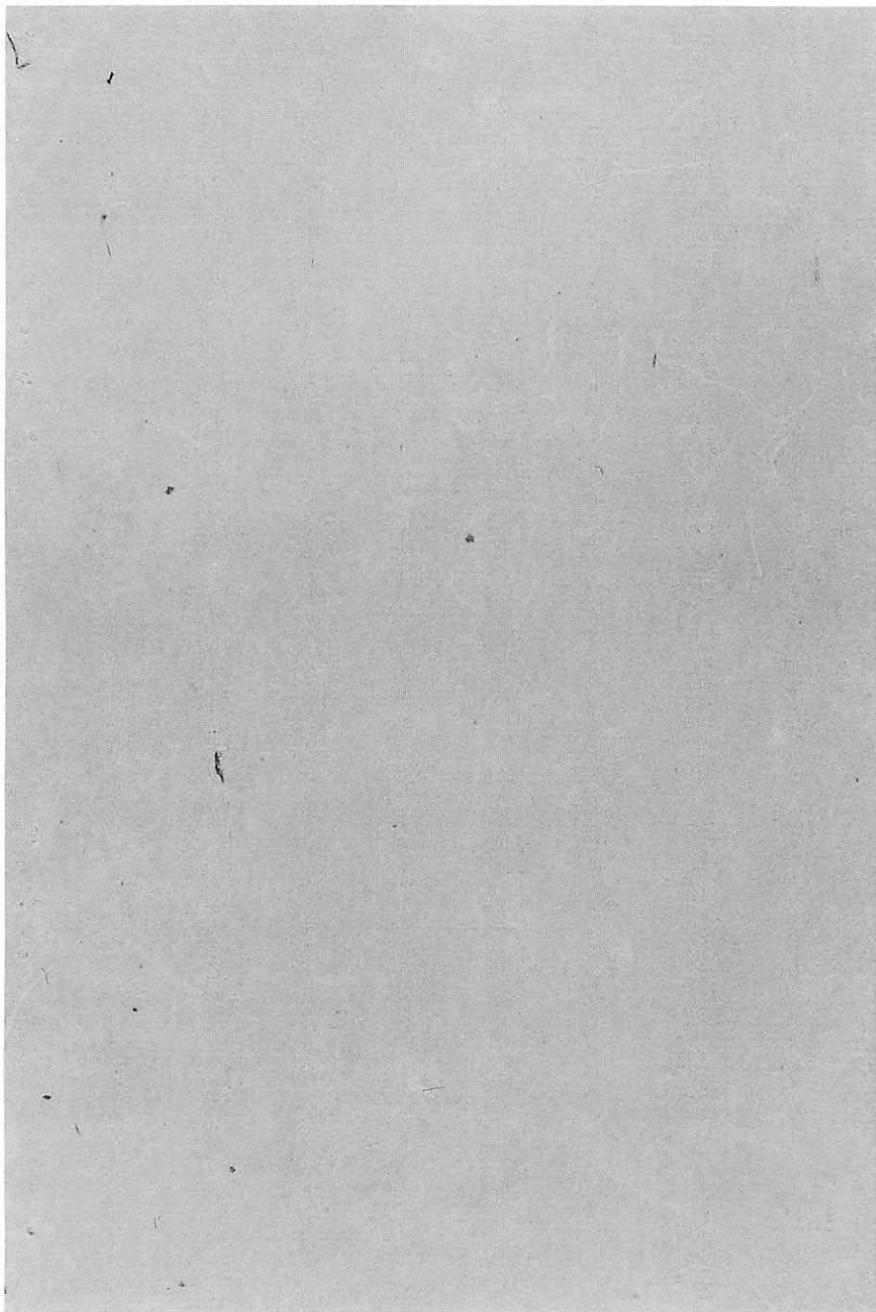
蟬話



微雨の梅
(下十九才白紙)



微雨の梅（下十九ウ白紙）



寒^{カン}彈^{セン}鳴^{ナク}

ひそね女

唇

秋入

栞

山



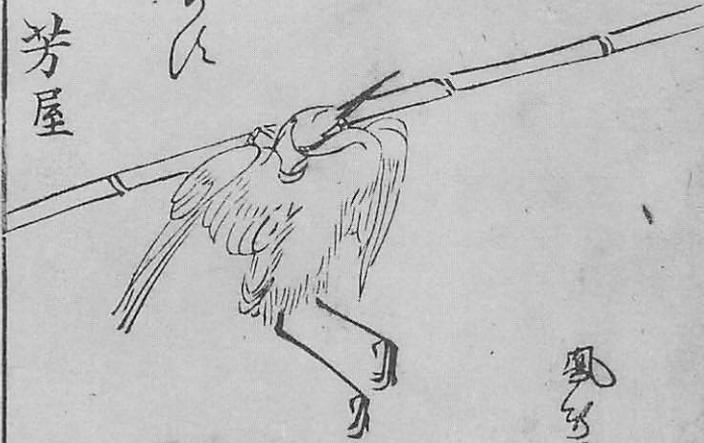
鷹乃祭鳥
タカ イシニル トリヲ

裁や

乃春鳥

盆
知らん

芳屋



鷹乃祭鳥

テニナハシメテシヨ正
天地始肅

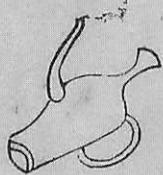
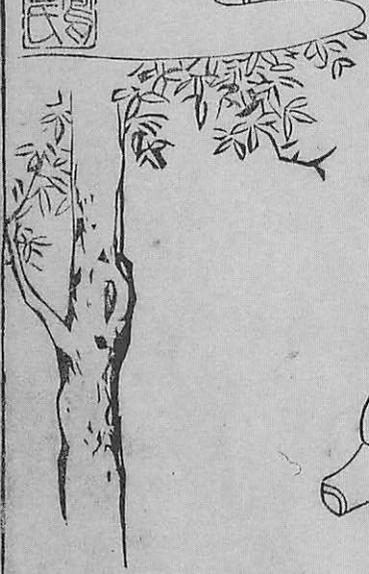
今朝農秋 大人发生

醒雨家屋

千穠閣主人

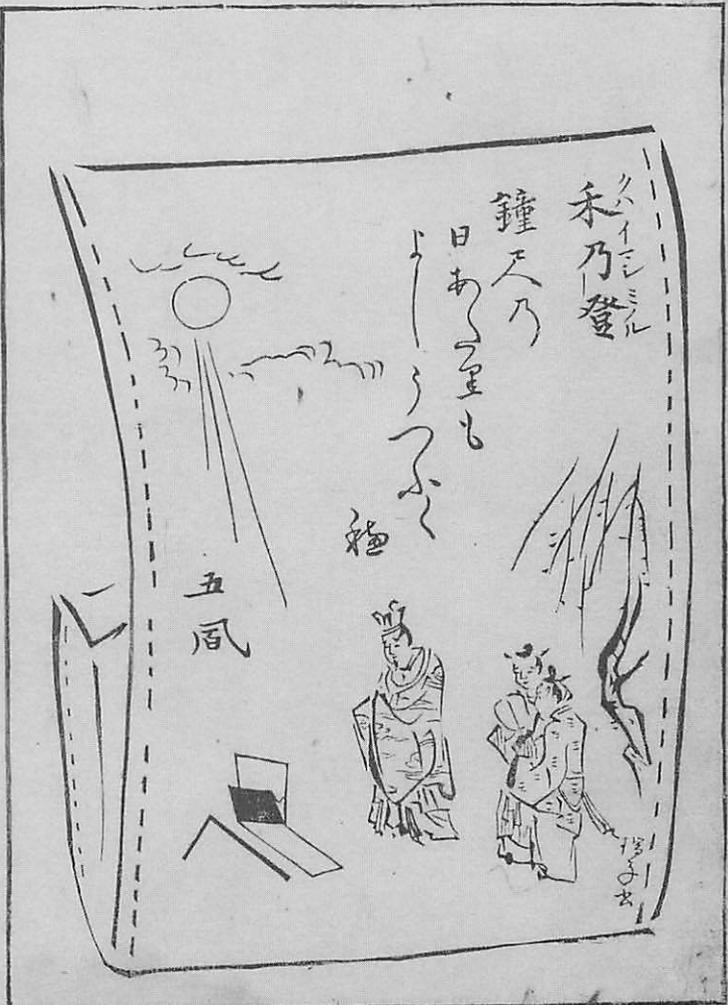
子稻子題

六造仙青峩書



化笛斎仙霍圖





候雁来 コウカンキタル

Handwritten characters forming a stylized plum blossom pattern, consisting of multiple 'フ' (Fu) characters arranged in a curved, overlapping sequence.

寒少 サムシ

の ノ 待 マツ 色 イロ

癖

始 ハジメ 也 ヤ

驚 オドロク 疾 ハヤシ 人 ヒト 沾 シヅメル 入 イル 自 ミヅケル 畫 エ





群鳥養羞
クニ テウ ヤシナク レウヲ

不知路の妹

唄も中や

公治長

賤娥自原




三餅樓

其畔

赤蜻蛉

新唱也

寂たる

酒癖ハ

ライハシメテオサムコエ
雷始ぬき

雨蹴函



千ツキ少シコヲ
蟄虫坏戸

糸あかり

人月の虫

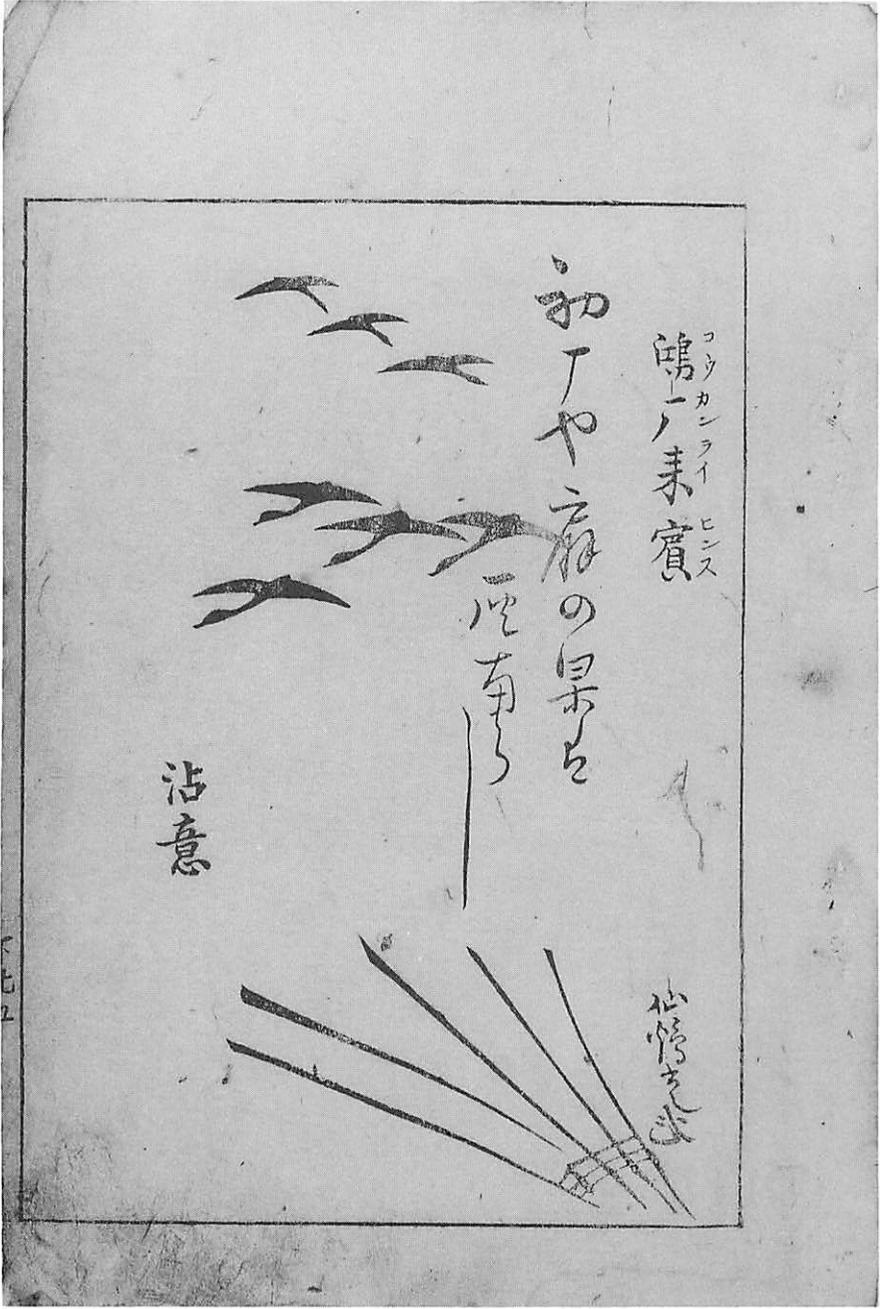
ゆふのそら

昏月堂
扇車



永河志





雀入大水為蛤
ス、メ、イ、ツ、ク、ヲ、ス、イ、ニ、ナル、ハ、ク、リ、ト

廓天乃

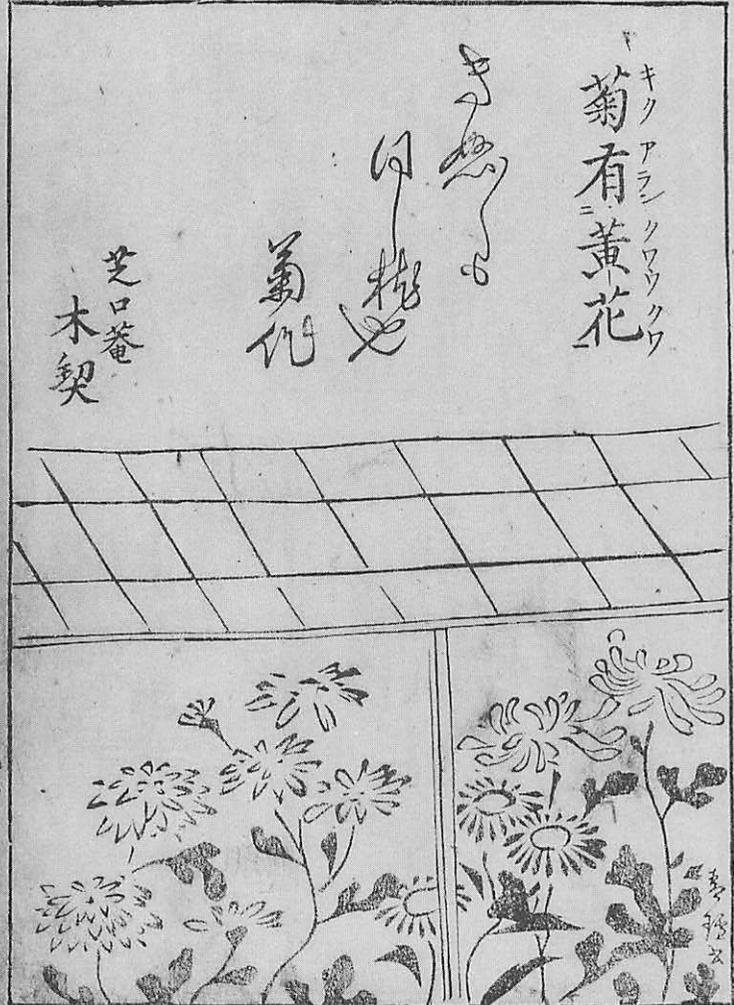
身禪

於也

系難頭

林過堂之悦





草木 笛ふみ洛

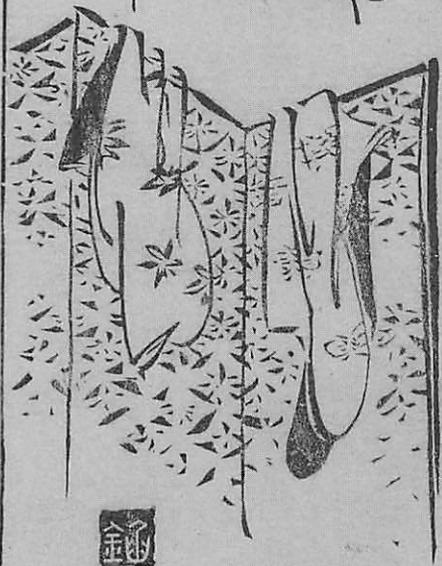
サウ モククワウ ラクス

色形

散れや

うしろの

みお月



志卷下 露石

サト
ミツルケ
タマシラ
射祭獸

射の氣あを

祈あを

将奕打

幽遠度
玄詞



蟄虫感俯
ヒツ モク モトク フス

氣味配ふ

茶白乃

御茶

出地
喜

茶荷



夕月堂

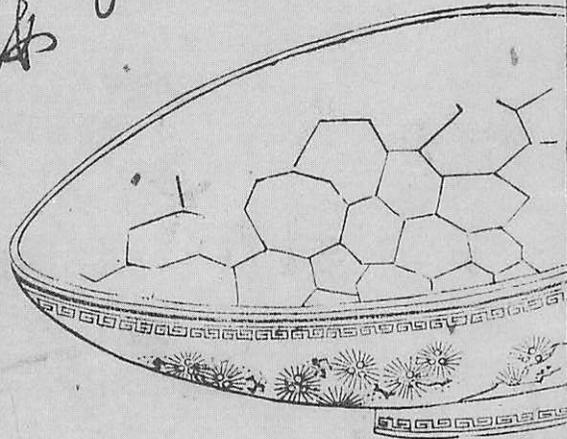
千ハシメコホル
地如漆

黄泥

うづら

白土

新築の地



小華を梅并出

下七

水始氷 ミツハシメテコホル

夕細 ユフホソ

清う池の スガウイケノ

初氷 ハツヒ

二柳濱 フタヤナギノハマ





虹藏不見
ニシ
カクレテ
ス
三三

雨来速

道

川也

果一之流

名格字多群
里天



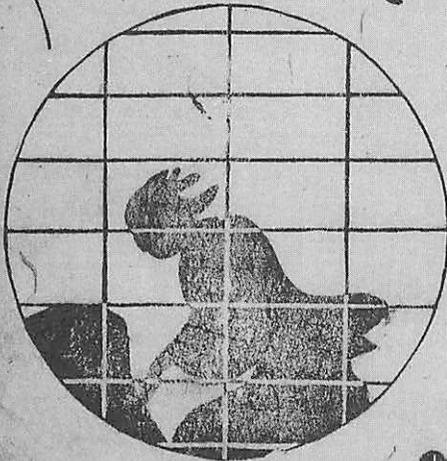
天氣上騰トウシ 地氣下降カウス

苔コケ

ぬるぬる

梅ウメ

雨アメ



音雪ネユキ





カウタシスナカ
鶺鴒不鳴

豊嶋
秀圃

山鳥や

聲を

枯野の

信た鳥の



聞雪
[Red seal]













シヤク
ハニダスヲク
鶺鴒 始巢

かきま

春遠葉をむらぬ夜玉の光

標梅





ニハトリ ニウス
鶏乳

世之物也

免鶏丸乃

秀作里



村松
沾帆

白鳳軒



征鳥 厲疾

隼や小兵 おまじも
源九郎

千寂

白鳥



水澤腹空 スイノクシキカケル

神水 カミノミヅ

酒宿あり サケノヤドアリ
曇空の月 クモリソラノツキ

簡兮堂露蕉 カンギョウドウロウキョウ

仙鶴 センカク

凡^レ群^ニ生^{スル}海^ノ山^ノ草^ノ樹^ノ之^ノ間^ニ
者^ハ或^ハ飛^ハ或^ハ走^リ虎^ノ豹^ノ鯤^ノ鯨^ハ
其^レ大^{ナル}者^也也^ニ燕^ノ雀^ノ蜂^ノ蝶^ハ其^レ
小^{ナル}者^也也^ニ皆^レ能^ク莫^シ不^ク飛^ビ走^ル
如^キ此^ノ之^ノ類^ノ不^レ可^ク勝^テ計^{ソフ}於^テ

是露月子分探 四時之
候而句是輕焉尚且顯
詠源氏則欲盡和羹之
美味者乎付與仙客賓
朋勸醉以備于笑語燕

近世奇蹟考、言子保、三二年印本
の付録の圖を引くとし、此の圖は
十九丁落
微雨の梅、此圖ありとて、虎の五郎多所

甘き
のり

微雨の梅
(裏表紙)